

# MiTA

水島ポートニュース  
Mizushima International Trade Association

2014/11/3

Vol. **52**



**玉島ハーバーアイランドに企業立地決定!**  
～西日本の食料コンビナートを目指して～

特 集

## 水島港見学会開催

～7月開催：陸から～  
～9月開催：海から～

### Contents

- ・玉島ハーバーアイランドへ企業立地決定
- ・MITAホームページリニューアル
- ・MITA要望活動
- ・県内セミナーでのポートセールス
- ・「水島コンビナート総合特区水素利活用研究会」発足
- ・MITA総会開催報告



# 水島港見学会を開催しました!



水島コンビナート企業のものづくりや玉島ハーバーアイランドの物流施設等を一般の方に見学していただき、水島港の理解を深めていただく水島港見学会。今年は、7月29日(火)と9月28日(日)の2回に渡って開催し、多くの方にご参加いただきました。

第1回は、「水島港でのものづくりと物流拠点施設を見学しよう」をコンセプトに、34名が参加しました。当日は、好天に恵まれ猛暑の中でしたが、夏休みに入ったばかりの小学生も大勢参加していただきました。

バスでの移動中、MITA事務局の説明のもと、工事中の新高梁川橋梁、玉島ハーバーアイランド内の4号埠頭や立地企業を車中見学した後、今年4月から港湾運営会社となった水島港国際物流センター(株)を見学しました。

水島港国際物流センター(株)では、水島港国際コンテナターミナルの役割や港の仕組み等の説明が行われ、参加者は熱心に質問をしていました。屋上では、普段見ることのないガントリークレーンやストラドルキャリアなどの大きさや動きに大きな歓声があがり、特に子供達は大変興味を示し、一所懸命見ていました。

続いて行われた三菱自動車工業(株)水島製作所では、工場の歴史や製造などの説明を受けた後、溶接工場や組み立て工場で製造工程を見学し、コンビナート企業のものづくりの現場に触れることができました。



第2回は「海から見よう 水島港」をコンセプトに、倉敷市児島公民館との共催で開催され、小学生を含む38名が参加しました。この日も好天に恵まれ、普段なかなか見ることのできない海からの水島コンビナートや玉島ハーバーアイランドの姿を約2時間見学しました。

参加者は、児島観光港からチャーター船に乗り込み、瀬戸大橋の下を通過して水島コンビナートへ。穀物サイロや造船所、石油貯蔵タンクや石油化学のプラント、鉄鉱石を積んだ巨大な運搬船など水島コンビナートの多様な姿を海から眺めました。この水島コンビナートにどんな企業が立地しているのか、そこでどんな製品が造られているのかMITA事務局から説明を行い、参加者は水島港や水島コンビナートのスケールの大きさに驚き、メモを取ったり、写真を撮ったりしていました。

その後は、物流拠点である玉島ハーバーアイランドへ。巨大なガントリークレーンが立ち並び、数多くのコンテナが積み込まれている様子や、そのコンテナを船に積みこんでいる様子を見て、水島コンビナートで作られた製品が玉島ハーバーアイランドから船で国内外の各地へ運ばれることを知り、水島港が国内だけでなく、海外にもつながり私たちの生活を支えていることを実感することができました。

## 第2回 海から見よう 水島港

平成26年9月28日(日)



「みなさんお揃いですか〜?」



「むくじ丸出航で〜す!」



船上から水島港を見学



いよいよ乗船です



瀬戸大橋をくぐって水島コンビナートへ



水島港から見たガントリークレーン



いろいろな船とすれ違います



「水島港のここがですね〜」



海上から眺める工場群



新高梁川橋梁の橋脚がきれいに見えました



「こちらをご覧ください〜」

## 第1回 水島港でのものづくりと物流拠点施設を見学しよう

平成26年7月29日(火)



水島港国際物流センター(株)屋上から水島港を見学



水島港国際物流センター(株)屋上から見たガントリークレーン



三菱自動車工業(株)水島製作所で水島コンビナートのものづくりを見学



今回の水島港見学会は、水島港をより知ってもらうため、陸からと海からの2方面で開催しました。参加者のみなさんには、色々な驚きや発見があったようです。

- ・普段は入れない施設や機械などを間近で見られたり、知らない事を知ることが出来て、倉敷、水島に愛着がわきました。
- ・ぼくは、海外から食べ物、原油、ガス、鉄こう石などを日本にゆ入して日本で使ったり、電気やせい品にしたりするのを知りました。車の工場では、ロボットがかつやくしていることにびっくりしました。また見学に行きたいです。
- ・玉島や水島の役割を知ることができました。自分の知らない事を学ぶのはとてもいい体験ですね。
- ・今日見せていただいたのは、工場地帯の一部だと思いますので、もしこのような企画が、開催されるようであれば、今後もぜひ参加させていただきたいと思えます。
- ・水島コンビナートに船がいっぱいあり、たくさんの会社があることが分かった。
- ・コンビナートを海側から見ることで、新鮮でした。
- ・水島港の広さと船の大きさ、そして港の役割、これからもっと港を使ってもらおうようしてください。
- ・日常あまり必要無く、通りすぎていたことを改めて知ることが出来、今日一日良い学び、説明を聞かせてもらい本当に意味深きものでした。

見学会にご参加いただいたみなさん、ありがとうございました!

# 玉島ハーバーアイランドへ食料コンビナート企業立地決定！

玉島ハーバーアイランドに新たな企業立地が決定し、2014年10月3日に県庁で立地に伴う協定書への調印式が行われました。立地予定企業は、JA西日本くみあい飼料(株)、(株)J-オイルミルズ、全農サイロ(株)の3社であり、立地予定地は3工区で、その面積は過去最大規模となる約10.8haにのびります。

調印式には、立地予定企業3社の代表者と伊原木隆太岡山県知事(MITA会長)、伊東香織倉敷市長(MITA副会長)、立会人である全国農業協同組合連合会の代表者が出席しました。

このたびの企業立地は、2011年3月の日本エアロフォーシ(株)以来の大型立地であり、輸入された穀物の保管から食品や飼料等の生産に係る企業が一体的に立地して、食料コンビナートを構築するものであり、新たに年間約120万トンの海上貨物が取り扱われることによる水島港の発展、さらには地域経済の発展に大きく寄与するものです。

立地予定企業3社は新プラントを建設し、とうもろこしや大豆等を大

型穀物船により輸入し、畜産用配合飼料や食用油等に加工して西日本各地に配送します。なお、投資額は3社合計で約270億円となっており、操業開始は2017年4月の予定です。

調印式後に、伊原木知事からは「本県の温暖な気候、地震や台風などの自然災害が少ないこと、原料、製品等の海上輸送に有利な臨海部に広大な敷地があったこと、さらには、本県と倉敷市が全面的に支援・サポートする姿勢を示したことなどが、立地の決め手になったのではないか。『岡山に進出して良かった』と思っただけのよう、県と市で連携しながらしっかりとバックアップしてまいります。」とのコメントがありました。

この玉島ハーバーアイランドへの企業立地は、MITAが水島港セミナー(東京)の開催等を通じて、県や倉敷市とともに取り組んできた誘致活動の大きな成果であり、MITAでは引き続き、水島港の発展に向けて活動していきます。



## MITAホームページリニューアル

このたび、スマートフォンに対応したMITAホームページにリニューアルしました。

県が作成した水島港PR動画や過去のポートニュースも閲覧できます。また、MITAの活動もトピックスとして随時更新していきますので、是非ご覧下さい。

<http://www.optic.or.jp/MITA/>



ホームページトップ画面

# MITA要望活動を実施



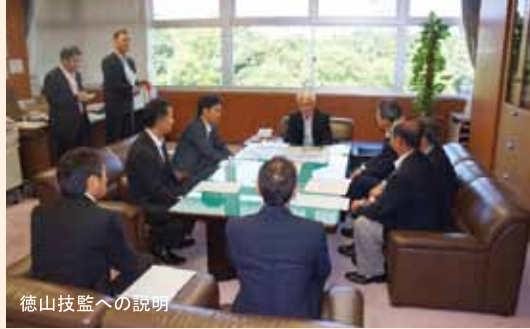
野上副大臣への要望



中国地方整備局での要望



大脇港湾局長への説明



徳山技監への説明

MITAでは国土交通省に対し要望活動を実施しました。8月1日、野村要望団長(三菱自動車工業(株)水島製作所副所長)以下20名のMITA要望団は、国土交通省中国地方整備局丸山副局長他9名の幹部への要望活動を実施しました。河田倉敷市副市長も参加される中、野村団長が各要望項目の内容について詳細な説明

を行いました。丸山副局長からは、水島港には全国一とも言える地元の支援体制が構築されており驚いていること、また新橋梁整備事業をはじめとする水島港への27年度予算確保のためには中央に地域の声を確実に届けることが必要のため、是非とも力を貸していただきたい、とのコメントがありました。

また、8月6日、同じく20名のMITA要望団は、国土交通本省への要望活動を実施し、MITA顧問である橋本岳衆議院議員に同行いただき、野村団長が野上国土交通副大臣に直接要望書を手渡し、さらに徳山技監、大脇港湾局長、菊地大臣官房技術参事官にそれぞれ各要望項目の内容について詳細な説明を行いました。

この後、衆議院・参議院両議員会館においてMITA顧問である国会議員の方に対して要望内容をお伝えし、要望実現に向けて支援をお願いしました。今後もMITAでは、水島港の発展のため要望活動を実施してまいります。



## 県内セミナーでのポートセールス



平成26年9月17日台湾食品市場開拓セミナー



平成26年7月25日海外投資展開セミナー

MITAでは日本貿易振興機構(ジェトロ)岡山貿易情報センターや岡山県商工会議所連合会が企画する県内企業を対象にした貿易セミナーの場をお借りして、水島港の利用をお願いしました。貿易に関心のある企業が参加するセミナーでのPRは効果的であることから、水島港での将来の取扱いの可能性を期待して、水島港の施設整備状況や物流面での利便性、また定期コンテナ航路の説明を行いました。

## 「水島コンビナート総合特区水素利活用研究会」発足

将来的に化石燃料が枯渇する危険性、近年の地球温暖化等のエネルギーを巡る問題が深刻化する中で、水素の利活用が注目されています。

水素をエネルギー源とする燃料電池の市場規模は、2025年に世界で5兆円規模に拡大するとの試算もあります。

これまで水素は、主として石油精製過程や各種工業プロセスにおける産業ガスとして利用されてきましたが、定置用燃料電池や燃料電池自動車での活用が実用化されつつあります。

今後、これらの用途以外にも石油等を代替するエネルギーとして水素を利用できる可能性があり、一部の用途については、国内外で既に実証研究等が行われています。

こうした流れを受け、県では、水島コンビナートの競争力強化のために行っている操業環境の向上の一環として、水素エネルギー社会の到来を見据え、水島のポテンシャルを生かせるよう、生産過程で発生する「水素」の有効活用に向けた研究会を立地企業と連携して設置しました。

総合特区を推進するために組織している「水島コンビナート発展推進協議会」の中の研究会として活動することとし、メンバーには、水島の

主要8社に加え、県、倉敷市が事務局で参画しています。

研究会では水島で発生する水素の量などを把握したうえで、企業を超えて融通し合う企業間ネットワークの可能性について整理・検討するとともに、これからの水素社会に向け、水島を水素供給基地とするために必要な検討を行うこととしています。

7月9日には研究会のスタートとして、倉敷市内において、水素の利活用を巡る国の動向、水素エネルギー社会の到来に向けた企業の取組などについてキックオフセミナーを開催しました。セミナーには水島コンビナート立地企業及び水素に関心のある県内企業等から約100名が参加し、関心の高さがうかがわれました。



## MITA総会報告

6月4日、第17回MITA総会をメルパルク岡山で開催し、総会には来賓、会員を合わせて104名が出席しました。冒頭MITA会長として壇上に立った伊原木岡山県知事は、「水島港の振興については、私の強い思いを込めた県政推進の羅針盤である「晴れの国おかやま生き活きプラン」において、「地域を支える産業の振興」を実現するための重要な事項と位置付けており、コンテナ貨物の集荷戦略や水島コンビナートエリア含めた規制緩和、さらに玉島ハーバーアイランドへの優良企業の誘致にも取り組んでまいりたい。」と挨拶しました。

総会では、MITA副会長である三菱自動車工業(株)水島製作所の須江所長が議長を務め、顧問の変更、平成25年度事業活動報告及び収支決算、平成26年度事業計画及び収支予算案についていずれも承認されました。

総会後、日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査部アジア大洋州課の小島英太郎氏に「ASEAN・南アジアのビジネス環境をどうみるか」と題して、詳細な分析資料とともに、元ヤングン事務所長としての経験を踏

まえて日本企業が把握すべきビジネス上の課題についてご講演いただきました。



開会挨拶をする伊原木知事



### 今号の表紙

10月3日に県庁で行われた立地協定調印式の様子です。  
左から、伊東倉敷市長、平間全農サイロ(株)代表取締役社長、(株)J-オイルミルズ榎田代表取締役社長、薬師寺JA西日本くみあい飼料(株)代表取締役会長、伊原木県知事、小原全国農業協同組合連合会常務理事。